

はあとほっとステーションしまだ

2004.3

Vol.16

インフォームドコンセント

【 - 医療者の説明と患者さんの理解、選択そして合意(同意) - 】



島田病院

インフォームドコンセントというのは、言葉では浸透してきましたが、医療の現場ではなかなか現実のものとはなっていません。もう5年ほど前になりますが、私の義母が健診で大腸癌と診断されました。大腸ファイバーという内視鏡の検査でポリープという膨らんだ部分が見つかり、その一部を取り出して顕微鏡で調べる生検という検査を受けました。その結果、癌が見つかったのです。幸い、まだ進行しておらず初期のものだということで手術を受けることになりました。

某大学病院で手術の予定が組まれました。いつもは自分が行っている手術や麻酔の説明など、家族の立場で聞くことになりました。担当医は二人のペアでした。ベテランの大腸癌のスペシャリストと彼に指導を受ける若い医師の二人です。説明は若い先生が行いました。看護師さんは付いていません。癌という病名は母親には伏せてあります。その点は実にお手にお話しいただきました。彼女も自分の身体に起こったことをみんなが何とかしようと努力していることが嬉しくまた頼もしく写ったようです。説明に聞き入っていました。

次第に細かく治療の内容の説明になります。手術でも輸血でも起こりうる可能性のある危険な出来事が次々と述べられました。そばにいて、本人と妻の身体がこわばっていくのが分かりました。緊張が高まります。担当医の説明は続きます。「稀にですが、こういうことも起こりますし、こんな可能性も否定できません。で、よろしいですか、この説明がお分かりになればここにサインをして下さい。手術が明後日なので、なるべく早く看護師に渡して下さい。よろしく願います」それだけ告げて医師は退室していきました。これで面談は終了です。

私と女房は顔を見合わせました。歯科を受診する前日に眠れなかったというエピソードを持つ義母です。これから自分が受ける治療の恐ろしさに改めて気付いたようにカチコチになっています。何とか取りなそうと「おばあちゃん、先生はあんな風に言われたけど、基本的に安全なもんなんやで。

そやなかったら、みんな手術なんか受けへんもんな」と付け加えるのですが、耳に届いているようには思えません。こわばった作り笑いで受け流します。黙り込んでしまった彼女を囲んで家族の説得が始まります。少しずつ表情がほぐれてきましたが、今日は眠れないかもしれないと看護師さんに入眠剤をお願いして、私たちは帰途につきました。

私が医師であることは担当医も十分理解しています。説明は詳しく専門的で、おそらくこれだけ言っておけば何が起こっても大丈夫だろうという周到的な準備が感じられるものでした。しかし、その分、相手の理解や反応には無頓着なやり方でもありました。よく練られた筋書に沿って走らされている感じです。医師である私ですら口を挟み、質問できる雰囲気ではありませんでした。普通は、分かってと分かるまいと素直にサインをして「お願いいたします」と頭を下げるのでしょう。いわば儀式のような段取りです。双方向のコミュニケーションとはとても評価できる流れではありません。

手術や麻酔の説明を聞いて、恐ろしくなって受けるのをやめてしまう方もおられるようです。手術は誰でもイヤです。痛そうだし、怖いし、うまくいかなかった人の噂ばかり耳に入ってきて、不安がつのります。えいやと覚悟を決めて、担当の医師に下駄を預ける気持ちになる以外ないのかもしれない。

そもそも治療は、期待される効果と予測される危険性とのバランスで選択し決定していくものです。薬でも手術でも検査でも、100%安全と保証できるものはありません。何か突発的なことが発生する可能性はいつも隠れています。また、医療者が一つの同じ病名の患者さんに対して、同じことをしても必ずしも同じ結果が出るとは限りません。こうした医療に伴う不確実な性質をどのようにとらえるか、患者 - 医師関係の強さが問われるのでしょうか。たとえば、期待した結果とは

(次ページにつづく)

< 島田病院 理念 >

人間愛と確かな技術に基づき職員全員による患者さま本位のヘルスケアサービスを通し地域の積極的な健康づくりに関与する病院を目指します

< 使 命 >

良質のヘルスケアサービスを効率よく地域の方々に提供し続けます

< 職員憲章 >

私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを心(Heart)と技術(Hands)で支援します

(前ページより)

異なる事態となるとします。患者さんは「こんなことが起こるのだったら、受けなかったのに」と医療者に訴えられることもあります。こうした経験で辛い思いをした医師は、次からは防御的になっていく傾向があります。起こりうる可能性をこれでもかとはばかりに並べ上げる説明をして、あとで「聞いていなかった」と言われることだけは避けようとするのです。これでは良好な信頼関係が築けるはずありません。

本来の「インフォームドコンセント」に基づく診療では、ケアの受け手も送り手も、双方が自分の責任を理解している関係が基盤になるのだと思います。医療者が従来のように、十分な説明も行わず患者さんにとって最良と思われる治療を自分が判断して実行するというやり方では、何も変わりません。患者さんも自分の疾患とその治療について知識を得る努力をしないといくら丁寧に医師が説明しても理解できず、どうすればよいか自分の判断ができないこととなります。同じ治療でも人によって効果が変わることや期待される成果が

常にすべての場合に得られるとは限らないといった「医療の不確実性」や「治療で発生する危険性」を医療者と共に背負う覚悟も必要となります。インフォームドコンセントは患者と医療者がお互いに責任を持って協同で作り上げていく作業なのだ痛感します。どちらか一方の努力だけでは成り立ちません。

島田病院ではできるだけ時間をかけて手術や検査の内容をご説明する努力をしております。説明に納得できない場合や疑問があれば、医師や看護師に申し出て下さい。十分に納得して診療を受けていただきたいと願っています。よろしくお祈りいたします。

島田病院 院長 島田 永和

リハビリについて

リハビリとはもちろんリハビリテーションのことですが、島田病院はおかげさまで近畿地区のリハビリテーション病院としては第5位の評価を患者様のアンケートより受けました。また当院は南河内地区のリハビリテーション

の地域支援病院でもあります。リハビリに関してはその内容を誇れる病院ではないかと受けとめています。しかしこれに満足せず今後もさらにより技術・サービスの向上に日夜努めています。



さて、島田病院では寝たきりや寝かせきりになられて、現在リハビリをあまりされていない患者様に対して、維持リハビリの指導もさせていただきます。これにより患者様の日常生活における質の向上のお手伝いをしています。維持リハビリの継続は非常に大切なことです。

寝たきりや寝かせきり、または廃用症候群になられて、日常生活行動レベルの低下をされている方がおられましたら、またそのようなご家族をお持ちの方は、内科外来(担当医師:内科 植田)までご相談ください。ぜひ効果的なリハビリを指導させていただきたいと思います。

(内科医長 植田秀樹)

廃用症候群 病気や障害などにより、日常の活動性が低下したり、安静を保たなければいけないときに発生する、二次的な機能の衰え。

南河内圏域地域リハビリテーション研修会

日時：平成16年3月6日(土)14:00 ~17:00

場所：藤井寺市市民総合会館別館 中ホ - ル

〒583 0024 藤井寺市北岡1-2-8

TEL0729-39-7020

(主催：南河内圏域地域リハビリテーション連絡協議会)

第一部 基調講演

「脳卒中・後遺症を乗り切るために」

講師 日本脳卒中協会事務局長 中山クリニック

院長 医学博士 中山博文

第二部 当事者からの話題提供

「脳卒中患者になって思うこと」

第三部 質疑応答

お問い合わせは

大阪府藤井寺保健所 TEL0729-55-4181 FAX0729-39-6479

大阪府富田林保健所 TEL0721-23-2681 FAX0721-24-7940

糖尿病について



糖尿病の食事療法とは？

糖尿病の食事療法には2つの役割があります。

- ① 健康な人と同様の日常生活を送るために必要な栄養を補給する
- ② 血糖、血中脂肪、血圧などを良好に維持する

この2つの役割を兼ね備えた食事を継続実施する事が糖尿病の“食事療法”と言われます。
その為には

1 過食をしない

自分に適正なカロリー量の食事

1日の適正なカロリー量は標準体重を保って日常生活ができる量です。
その適正な摂取カロリー量は、年齢、性別、身長、体重、日々の生活活動量に基づき、
個人別に決められます。

2 偏食をしない

栄養素のバランスの良い食事

主食・主菜・副菜をそろえて！特に野菜は毎食必ず食べるようにしましょう。

3 毎日、朝食、昼食、夕食の3回を規則正しく食べるようにする

規則的な食事習慣

食後血糖値の変動をできるだけ少なくするために1日の適正なカロリーは朝食、
昼食、夕食3回の食事をだいたい平均に分割して同じくらいの量を食べるよう
にし、食事時間が大幅に変わらないよう間隔をあける事が大切です。朝、昼兼用に
して1日2食しか食べないとか、朝、昼は軽く済ませ夕食にまとめて食べる、いわ
ゆる“まとめ食い”はやめましょう。

4 よく噛む

ゆっくりと食べる

早食いは食べ過ぎの大きな原因です。“早食い=食べ過ぎ”になるのは、脳の中
枢に満腹になったという知らせがいく前に、かなりの量を食べてしまうからです。
1口食べたなら20~30回は噛むように習慣づけましょう。


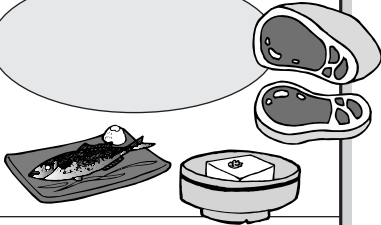
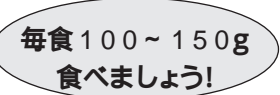
5 手作りの食事をする

外食を控える

外食メニューは一般にカロリーが高く、また、食事の内容が偏りがちになります。
どうしても外食をしなければならない場合は、比較的バランスの良い和風定食とか、
各種の食品を盛り合わせたランチスタイルのものにしましょう。



基本となる 1食分のおかずの配分

主食	▶ ご飯 1杯 
主菜(主になる、おかず)	▶ 卵1個または 肉60～70gまたは 魚70～80g(1切)または 大豆製品(豆腐)1/3丁  いずれかの1品を 必ず食べましょう!
副菜(副になる、おかず)	▶ 野菜・海藻・きのこ  毎食 100～150g 食べましょう!
油	▶ 工夫して少なめに使いましょう

ただし卵は1日1個までにしましょう

あとは、1日の内、牛乳など(コップ1杯)の乳製品をとり、間食としてケーキ等の甘いお菓子を
食べる代わりに、ビタミン・ミネラルの豊富な果物を食べるようにしましょう!!



一口メモ

糖尿病だからこれは食べたらダメかしら?ということをよく耳にします。
糖尿病だからといって食べてはいけない食品はありません。逆に糖
尿病に特別に良いという食品もありません。糖尿病でない人とまっ
たく同じ種類の食品をとる事ができるのです。ただし1日に食べる事
のできる「量」=「カロリー」が一人一人違うので、1日に決められ
たカロリーを守り、継続して行く事が大切です。

島田病院では、このニュース・レターが病院と患者様を結ぶコミュニケーションツールとなるよう願っています。
ぜひ、みなさまからのご意見、ご感想を館内各所に設置している「きくぞう君(ご意見箱)」までお寄せください。